

# 決算状況

八女市では条例に基づき、毎年5月と11月に市の財政状況を公表しています。今回は、令和2年度の決算の内容をお知らせします。広報紙では、それぞれの項目について簡素化して掲載しています。詳しい決算の内容については市ホームページの「財政状況」および財政課内で閲覧することができます。

八女市は合併して10年が経過し、この間、国・県補助金や有利な市債等の財源を有効に活用しながらさまざまな事業を行ってきました。特に市債については、市の財政負担の軽減のため、地方交付税措置があるものを中心に借入れを行っています。今後も、将来世代へ過度の負担を残さないよう安定した健全な財政運営に努めていきます。

●問い合わせ 財政課 財政係 (☎23・1346)

## 財政用語の解説

**【地方交付税】** 所得税など国が徴収した税金の中から、市の財政状況に応じて交付されるお金。

**【国県支出金】** 事業など特定の目的の費用として、国・県から交付される補助金等のお金。

**【市債】** 大きな事業を行うために、国や金融機関から借入れのお金。※借入金に対しては、内容に応じ、元金償還の時、その財源として国から交付税が充てられます。(例：過疎対策事業債は借入金の70%算入など)

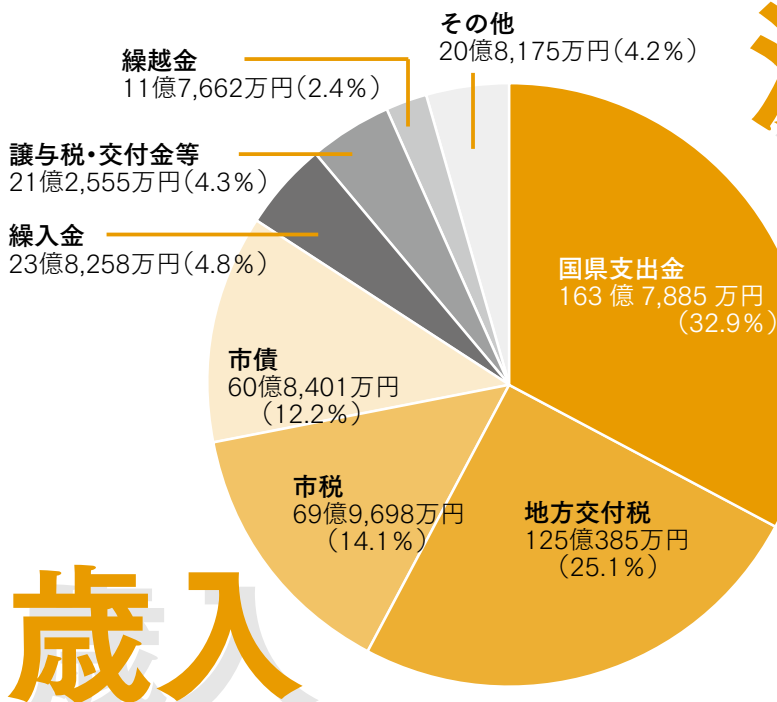
**【自主財源】** 市町村税など自主的に収入する財源。

**【依存財源】** 他に依存する形で調達する財源。(地方交付税、国県支出金など)

**【義務的経費】** 支出することが制度的に義務づけられている経費のこと。人件費、扶助費、公債費の3つからなる。

**【投資的経費】** 道路、橋りょう、公園、学校、公営住宅の建設等社会資本の整備等に要する経費。

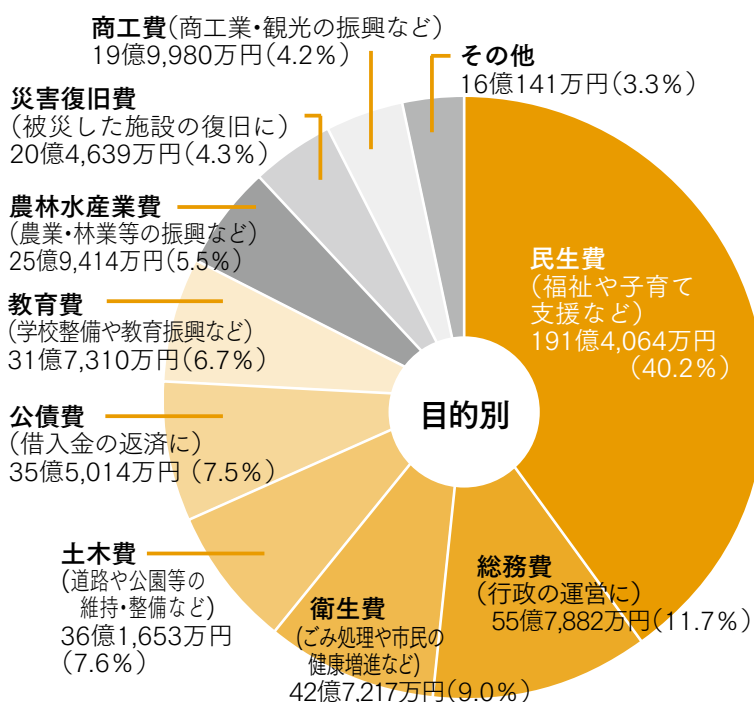
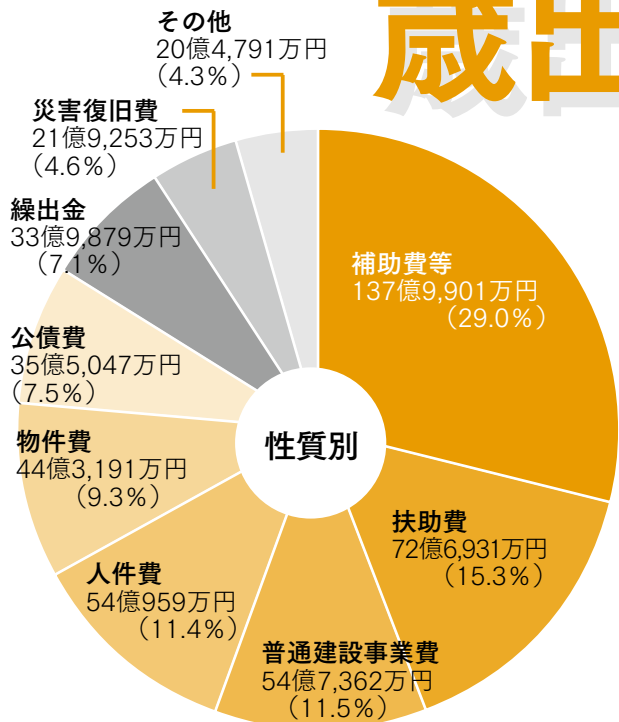
## ▼令和2年度歳入 497億3,019万円



# 歳入

## 歳出

## ▼令和2年度歳出 475億7,314万円



## ▼八女市の財政を家計に例えたら（令和2年度決算）

令和2年度の一般会計決算額を1か月当たりの収入30万円の家計に置き換えてみました。

財源	家庭の収入		市の収入		割合
自主	給料（基本給）	4万9千円	市税	70億円	16.2%
			使用料・手数料・分担金・負担金・諸収入	10億3千万円	
依・活	給料（諸手当）	8万8千円	地方交付税	125億円	29.4%
			地方譲与税・各種交付金	21億3千万円	
依・活	親からの援助	9万9千円	国県補助金	163億8千万円	32.9%
自主	その他の臨時収入	6千円	寄付金・財産収入	10億5千万円	2.1%
依存	ローン（借入金）	3万7千円	市債	60億8千万円	12.2%
自主	貯金の取り崩し	1万4千円	繰入金	23億8千万円	4.8%
自主	前月の残金	7千円	繰越金	11億8千万円	2.4%
	収入計	30万円	歳入計	497億3千万円	100.0%

●自主財源（25.5%）  
（左表表記=自主）  
家庭=7万6千円  
市=126億4千万円

●依存財源（74.5%）  
（左表表記=依存または依）  
家庭=22万4千円  
市=370億9千万円

依存財源の内、国・県の補助金等を活用した財源（62.3%）  
（左表表記=活）  
家庭=18万7千円  
市=310億1千万円

●義務的経費（34.2%）  
家庭=9万9千円  
市=162億3千万円

●その他の経費（49.7%）  
家庭=14万2千円  
市=236億8千万円

●投資的経費（16.1%）  
家庭=4万6千円  
市=76億6千万円

※1 市の場合、借入金の元利償還金の返済（公債費）にあたっては、その一部が国から地方交付税として交付されます。よって、市の実質負担は小さくなります。

経費	家庭の支出		市の支出		割合
義務的経費	食費	3万3千円	人件費	54億1千万円	11.4%
	医療費や子どもの学費	4万4千円	扶助費	72億7千万円	15.3%
	ローンの返済	2万2千円	公債費（※1）	35億5千万円	7.5%
その他の経費	光熱水費などの雑費	2万7千円	物件費	44億3千万円	9.3%
	車などの修理代	1千円	維持補修費	2億3千万円	0.5%
	親戚への援助など	8万3千円	補助費等	138億円	29.0%
	貯金	6千円	積立金	10億7千万円	2.2%
	生命保険など	5千円	投資・出資・貸付金	7億5千万円	1.6%
	子どもへの仕送り	2万円	繰出金	34億円	7.1%
投資的経費	自宅の増改築や家財道具の購入	3万3千円	普通建設事業費	54億7千万円	11.5%
	壊れた持ち物の再購入	1万3千円	災害復旧事業費	21億9千万円	4.6%
	支出計	28万7千円	歳出計	475億7千万円	100.0%
	翌月に使えるお金	1万3千円	余剰金	21億6千万円	

### ●決算の状況

令和2年度は、国県補助事業等の財源を効果的に活用しながら自主財源を有効的に使い、財政の安定運営を進め、財源の重点的な配分を行いました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止、市民生活や地域経済対策に取り組みながら、少子高齢化対策、安心安全なまちづくりの推進、子育て相談支援事業、観光の振興、過疎対策や定住促進などの事業を推進してきました。

一般会計決算額は、歳入で497億3019万円、歳出で475億7314万円、差し引き21億5705万円となります。これから翌年度へ繰り越した事業に充てる財源15億9858万円を差し引き、実質収支で5億5847万円の黒字決算となりました。この内から3億円を財政調整基金に積み立て、残りの黒字額2億5847万円を令和3年度の財源に充当しました。

### ●健全化判断比率（表1）

健全化判断比率および資金不足比率は、令和2年度の決算状況を法律に基づき全国統一の指標として計算したもので、基準を超えた場合は、財政健全化計画を策定し、計画的に健全化に向けて取り組まなければなりません。八女市

（単位：%）

▼健全化判断比率（表1）

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
八女市	—	—	8.9	—
早期健全化基準	12.51	17.51	25.0	350.0
国の財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

※実質赤字額および連結実質赤字額がなく、将来負担比率は算定されないため、数値は「—」と表示しています。

は、国が示している基準を下回っており、地方公営企業の資金不足も生じていません。

▽実質赤字比率「二」については、普通会計（一般会計・矢部診療所特別会計）において黒字であることを意味しています。▽連結実質赤字比率「二」については、普通会計にその他の特別会計を含め、黒字であることを意味しています。▽実質公債費比率は、その年度の標準財政規模に対して起債（借金）の返済額（公営企業分や一部事務組合の起債を含む）の割合を出したものです。▽将来負担比率「二」については、負債に充てられた財源が負債額を上回っていることを示しています。

## 少 子・高齢社会に対応し、自分らしく、安心して暮らせるまちづくり

- 各種がん検診委託事業…6,888万円
- やめっこ夢祝金支給事業…2,639万円
- 育児支援こどものごはん提供事業…1,773万円

保育所等の食の安全確保および保護者の育児負担軽減を実施しました。市内の全保育所等において、八女市が支給認定を行った3歳以上児の主食の提供に係る費用を補助し、主食の持参および主食費の保護者負担をなくすことができました。

- やめUIターン子ども応援手当支給事業…516万円
- 路線バス通学定期補助事業…703万円
- ごみ出し支援事業…400万円

ごみ出し支援の実施に向けた実態調査において、高齢者世帯などを調査対象に民生委員からの聞き取りを行い、ごみ出しに苦慮していると思われる世帯を抽出し、ごみ出し支援の意向調査を行いました。また、地域によるごみ出し支援の取り組み状況についても調査を行いました。

- 高齢者安全運転支援装置普及促進事業…94万円

## 生 きる力の育成と豊かな心を育てるまちづくり

- 市立学校コンピューター整備事業…6億7,785万円
- 本市の全ての市立学校に、高速大容量の通信ネットワーク環境や児童生徒一人一台端末利用に向けたタブレット型パソコンを購入し、ICT環境が整いました。
- 小学校特別教室空調設置事業…9,098万円
  - 学力向上推進事業…9,235万円



- 入学祝金事業…4,166万円
- 八女市奨学金…1,430万円

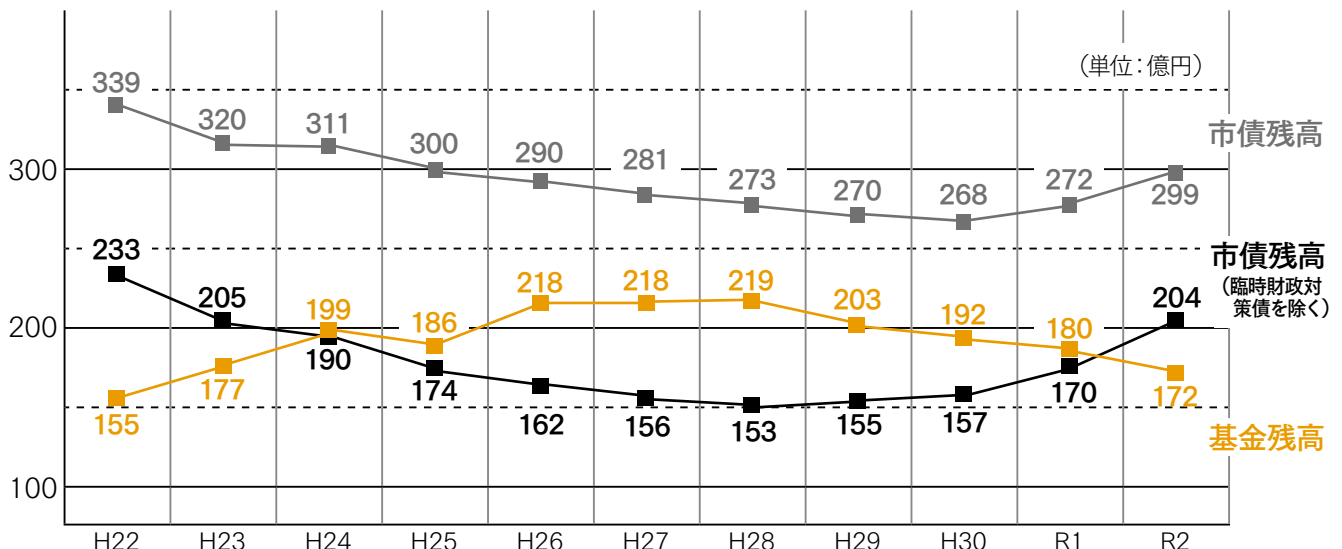
## 市 民とともに歩み、市民とともに進めるまちづくり

- 庁舎建設事業…1億3,223万円
  - 地域活性化推進プラットフォーム事業…3,204万円
- コミュニティ通貨「まちのコイン」を導入し、福島地内に設置した関係人口創出拠点（つながるバス停）から情報発信することで、利用者や市内加盟店の拡大を図ることができ、関係人口の創出に寄与しました。
- 都市交流事業…658万円

## 一般会計市債・基金残高の推移

※平成22年度から令和2年度までの一般会計市債・基金残高の推移です。

※臨時財政対策債とは、普通交付税（国からの交付金）の代替財源のため市債償還に対して、全額国から補填されるもので、実質借金ではありません。



## 新 型コロナウイルス感染症への対応

- 事業所応援金給付事業ほか 40 事業(八女市独自施策分)…12 億 1,659 万円
- 特別定額給付金事業ほか 21 事業(国県補助事業分)…69 億 1,265 万円

新型コロナウイルス感染症に関する総合的な支援策として、「がんばるバイ八女事業所応援金」などの市独自施策や国補助事業の特別定額給付金給付事業など第1弾から第6弾まで段階的に実施し、幅広い施策を講じました。

## 快 適で安全・安心な暮らしを支える基盤づくりと都市機能の充実

- 乗合タクシー運行事業…7,907 万円
- 道路・河川改良事業…12 億 9,631 万円
- 用悪水路浚 渫事業…4,489 万円
- 防災対策事業…3,278 万円
- 消防関係施設設備等整備事業…8,815 万円
- し尿処理施設建設事業(負担金)…18 億 2,364 万円
- 上水道整備事業(豊岡地区水道整備)…1 億 9,884 万円

## 人 と自然にやさしく、暮らしやすい生活空間づくり

- 若年世帯家賃等支援補助事業…7,188 万円
- マイホーム取得支援事業…6,140 万円
- 浄化槽設置整備事業…1 億 6,129 万円
- 空き家バンク事業…618 万円

## 地 場産業・観光の振興と地域資源を活かした新産業創出、雇用の確保

- 新規就農促進支援事業 …8,375 万円

- 八女材普及促進住宅資材助成事業…3,370 万円
- 竹林整備対策事業…1,664 万円
- 商店街活性化対策事業…517 万円
- 地域しごとづくり支援事業…979 万円

地域しごとづくり拠点施設南仙荘(黒木町)を活用し、地方で事業を展開したい都市部の企業を対象に、お試しサテライトオフィスの利用を推進し、企業誘致に取り組みました。

また、市民を対象に起業セミナーやテレワーク講座を実施し、地域課題や事業への理解を深めてもらうことで地域活性化に繋がりました。

- きのこ村整備事業…4 億 8,048 万円

黒木町笠原地区で平成 24 年の九州北部豪雨で被災した「きのこ村キャンプ場」を新たに「奥八女焚火の森キャンプフィールド」としてオープンすることができました。コテージ、キャビン、さまざまなタイプのキャンプサイトを有し、「木育施設」や「八女茶カフェ」を併設したキャンプ場に生まれ変わりました。



## ■ 森林環境譲与税を活用した事業

(令和2年度実績)

### 令和2年度森林環境譲与税譲与額 8,360万6千円

- 森林経営管理事業(業務委託)…393 万 8 千円  
モデル的な山林において、経営管理意向調査を実施。
- 森林保全整備促進事業…3,658 万円  
市内に所在する森林で実施される間伐等の森林保全整備に対し事業経費の 20%以内で補助し、森林保全整備を促進。
- 木材生産促進事業…553 万 4 千円  
市内の森林から市内市場等へ搬出される間伐材の運搬経費に対し 1㎡あたり 1,000 円以内の補助を行い、搬出間伐の促進と木材の生産活動を推進。
- 竹林保全整備促進事業…1,664 万 4 千円  
市内の竹林から市内竹材加工業者までの搬出・運搬経費に対し竹材 1kg 当たり 6 円以内で補助を行い、伐竹による放置竹林の拡大防止および竹林の維持保全と整備の促進。
- 森林環境譲与税基金積立事業…2,091 万円  
後年度の森林整備等の経費として積み立てを実施。

※詳細は八女市ホームページに掲載しています。

## ■ 令和2年度特別会計決算状況

会計名	歳入	歳出	差引
国民健康保険事業費	88億3,052万円	87億6,412万円	6,640万円
介護保険事業費	82億953万円	78億5,403万円	3億5,550万円
後期高齢者医療	10億6,444万円	10億6,218万円	226万円
矢部診療所	7,745万円	7,142万円	603万円
黒木町串毛財産区	112万円	0円	112万円
黒木町木屋財産区	798万円	74万円	724万円